



東京で考える“災害と人権”

# 熊本震災と障害者を 受け入れた避難所

熊本学園大学・激動の45日

入場  
無料

2019  
4/16(火) ▶ 6/29(土)

[休館日]日曜日(祝日は開館) [時間]9:30~17:30

東京都人権プラザ1階企画展示室

[主催]東京都人権プラザ(指定管理者:公益財団法人東京都人権啓発センター)

[協力]学校法人 熊本学園

入場  
無料

2019  
4/16(火) ▶ 6/29(土)

[休館日]日曜日(祝日は開館) [時間]9:30~17:30

東日本大震災から8年が経過しました。それ以降も日本各地で大規模な災害が頻発し、被害の激甚化も指摘されています。被災した人々は様々な人権問題にさらされます。なかでも、障害者、高齢者、子供、外国人、病気療養中の人など、平常時に社会的に弱い立場にある人々にとっては、災害発生時から避難生活そして生活再建にいたるプロセスにおいて、災害による被害の度合いはもとより、人権問題もより増幅されやすいといえます。そこで、今回の企画展では、平成28(2016)年4月14日・16日に最大震度7を記録した熊本地震において、大学校舎を避難所として一般に開放し、高齢者や障害者も含めて受け入れたインクルーシブな避難所を運営した熊本学園大学の取組に学びたいと思います。"同じ災害は2つとない"と言われる。過去の優れた事例に学びつつ、東京でも起こりうる大規模災害時に直面することになる災害時の人権問題について皆様とともに考えてみたいと思います。



講演会 無料

## 人権を保障するインクルーシブな避難所とは

出演

花田昌宣(熊本学園大学社会福祉学部教授)

東 俊裕(弁護士、熊本学園大学社会福祉学部教授)

井上ゆかり(熊本学園大学水俣学研究センター研究員) 他(予定)

2019/5/11(土) 13:30 ~ 16:30

東京都人権プラザ セミナールーム [定員]80名 申し込み不要(先着順)

■情報保障(手話通訳。その他の保障については要問合せ)

■託児保育(無料。要事前申込。締め切り5月8日)

## アクセス

都営三田線 芝公園駅

A1出口から徒歩3分(エレベーターはA3出口)

都営浅草線・都営大江戸線 大門駅

A3出口から徒歩7分(エレベーターはA1出口)

JR線・東京モノレール 浜松町駅

金杉橋口から徒歩8分(エレベーターの利用は改札で駅係員にお尋ねください)

## お問い合わせ

東京都人権プラザ

〒105-0014 東京都港区芝2-5-6 芝256スクエアビル1・2F

TEL/03-6722-0123 FAX/03-6722-0084

e-mail/tenji@tokyo-jinken.or.jp URL/http://www.tokyo-hrp.jp/



東京都人権プラザ企画展

ハンセン病と人権

# 儀間比呂志

# 絵本『ツルとタケシ』原画展

「太平洋戦争のさなか、ハンセン病に侵された幼い妹と少年のきょうだい愛を中心に、宮古南静園で展開する若いハンセン病患者たちの国による「隔離と根絶」の悪法とのたたかい、明日を生きる源として命の再生をみようとしたのが物語のテーマです。差別と偏見は1日も早くなくしてほしいというのが私の願いです。」— 儀間比呂志『ツルとタケシ』より



2019年 8月17日(土)～11月30日(土)

時 間：9:30～17:30

入 場：無料

会 場：東京都人権プラザ1階 企画展示室

休館日：日曜日(祝日は開館)

主 催：東京都人権プラザ(指定管理者:公益財団法人東京都人権啓発センター)

協 力：沖縄愛楽園自治会、沖縄愛楽園交流会館

後 援：国立ハンセン病資料館

# ハンセン病と人権 儀間比呂志 絵本『ツルとタケシ』原画展

ハンセン病は「らい菌」により末梢神経や皮膚が侵される感染症です。感染力は弱く、発病することは稀な一方で、「不治の病」「恐ろしい伝染病」「遺伝病」とみなされ、厳しい差別の対象となりました。1907(明治40)年に始まる日本の患者隔離政策は、特効薬により治る病気となってもなお、「らい予防法」が廃止される1996(平成8)年まで続きました。90年におよぶ隔離政策とそれがもたらした根深い偏見、差別は、患者・回復者やその家族に多大な苦しみを与えてきました。今回の企画展では、沖縄出身の版画家・儀間比呂志が沖縄・宮古島を舞台にハンセン病を描いた版画絵本『ツルとタケシ』を通して、偏見、差別をどうしたらなくすることができるのか考えてみたいと思います。

## 関連イベント

- 会場 東京都人権プラザ セミナールーム
- 定員 80名(申込み不要、当日先着順)
- 入場 無料
- 情報保障 手話通訳。その他については要問合せ
- 託児保育 無料。要申込み(申込締切は各回開催日の3日前)

## プログラム①

### 講演会 「病み棄ての戻り道」

14歳で発病し沖縄愛楽園へ入所した伊波敏男さん。川端康成との出会いによって、学業を続けることを望み、沖縄愛楽園から脱走。本土復帰前の沖縄から岡山県の長島愛生園内にあった入所者のための唯一の高校“新良田教室”で学ぶ。回復者であることを明かして生きてきた講師が歩んだ“人間復権の旅路”とは。

講師：伊波敏男（作家、沖縄出身、ハンセン病回復者）  
日時：2019年9月7日（土）14時00分～16時00分

## プログラム②

### 講演会 「ハンセン病と沖縄：沖縄愛楽園から伝えたいこと」

沖縄県には『ツルとタケシ』の舞台である宮古南静園と沖縄島北部、屋我地島にある沖縄愛楽園、二つの療養所があります。『ツルとタケシ』の原画を所蔵する沖縄愛楽園自治会長の金城雅春さんと、2015年に沖縄愛楽園内に開館した交流会館学芸員の辻央さんを講師に、沖縄に暮らす回復者の今を学びます。

講師：金城雅春（沖縄愛楽園自治会長）・辻央（沖縄愛楽園交流会館学芸員）  
日時：2019年10月5日（土）14時00分～16時00分

## プログラム③

### ラジオドキュメンタリーを聞く

らい予防法が廃止された1996年、熊本の菊池恵楓園を舞台に、家族と絆を断ち切られた回復者が故郷を訪ねる姿を追った「出口のない街」。戦後70年を迎え、東京の多磨全生園の平沢保治さん、佐川修さん（故人）が隔離と差別の記憶を語る「ハンセン病と戦争」。二つの番組から、ハンセン病の“現在”を考えます。

視聴作品：RKK ラジオ「出口のない街～ハンセン病・その証言～」(1996年／42分)  
TBS ラジオ「ハンセン病と戦争～隔離と差別の記憶をどう受け継ぐのか」(2015年／55分)

ナビゲーター：崎山敏也（TBS ラジオ放送記者）  
日時：2019年11月19日（火）18時30分～20時30分



儀間比呂志（ぎま ひろし）1923年－2017年 版画家。沖縄生まれ。1940年から北マリアナ諸島テニアン島で過ごす。1943年に帰郷し、その後出征。配属先の横須賀で敗戦を迎える。戦後、上野誠に木版画を学び制作活動を開始。沖縄の人々の暮らしなど故郷沖縄をテーマに多くの作品を彫りつづけた。主な作品に『ふなひき太良』（毎日出版文化賞）、『鉄の子カナヒル』（サンケイ児童出版文化賞）、沖縄戦版画集『戦がやってきた』（沖縄タイムス芸術選賞大賞）など。



## ● アクセス情報

- 都営三田線 芝公園駅 A1 出口 から徒歩3分（エレベーターはA3出口）
- 都営浅草線・都営大江戸線 大門駅 A3 出口 から徒歩7分（エレベーターはA1出口）
- JR線・東京モノレール 浜松町駅 金杉橋口 から徒歩8分（エレベーターの利用は改札で駅係員にお尋ねください）

\* 身体障害者の方や、公共交通機関の利用が難しい方の専用駐車スペースをご用意していますので、事前にご連絡ください。

## ● お問い合わせ

東京都人権プラザ  
〒105-0014 東京都港区芝 2-5-6 芝 256 スクエアビル 1・2 F  
TEL 03-6722-0123 FAX 03-6722-0084  
e-mail tenji@tokyo-jinken.or.jp URL <https://www.tokyo-hrp.jp/>



© GENTLE HEART PROJECT

## 「心と体を傷つけられて亡くなった 天国の子供たちのメッセージ」展

会 期 | 令和元年 **8月21日(水)** ~ **8月31日(土)**

開館時間 | **9:30 ~ 17:30**

日曜休館 / 入場無料

会期中トークプログラムを開催します。

会 場 | 東京都人権プラザ ロビーギャラリー

(東京都港区芝2-5-6 芝256スクエアビル 1F)

主 催 | 東京都人権プラザ (指定管理者: (公財) 東京都人権啓発センター)

協 力 | 特定非営利活動法人ジェントルハートプロジェクト

夏休みが明けて新学期が始まる日は、子供の自殺が多い特異日です。それを憂慮して「学校が始まるのが死ぬほどつらい子は、学校を休んで図書館へいらっしやい」と呼びかけた図書館がありました。

東京都人権プラザは多くの児童・生徒が利用する施設です。こうした状況に対して、私たちにできることはないだろうかと考え、昨年、NPO 法人ジェントルハートプロジェクトの協力を得て、いじめ等により心と体を傷つけられて亡くなった子供たちのメッセージ展を初めて開催しました。

それから一年が経過しようとしています。子供をめぐる状況は、果たして良くなったでしょうか？いじめや虐待、無差別殺傷事件など、むしろ子供の安全が脅かされる出来事が続いているように思います。そこで、今年も同様に、夏休みが終わるタイミングに合わせて、亡くなった子供たちのメッセージ展を開催することにしました。一人ひとりの大切な言葉を、家族や残された人たちの想いととも展示しています。ぜひご来場いただき、奪われた子供たちの命について思いをめぐらし、子供の安全と権利について考える機会としていただくことを願っております。

## 展示内容

心と体を傷つけられて（いじめ等で）亡くなった子供たちが、社会に投げかけた言葉。そして、家族や残された人たちが、子供に伝えたいメッセージ。それらをパネルにして展示しています。どうかひとつひとつの言葉やメッセージに向き合っ、ご自身のメッセージを残していただきます。

## 協力団体

### 特定非営利活動法人 ジェントルハートプロジェクト

いじめ問題の解決を目指して、2003年3月に設立された NPO 法人。全国各地での講演、展示、勉強会等の取組を通して、子供たちが本来持っている「やさしい心」を育てることを目指している。

## トークプログラム・映像上映

期間中、トークプログラムや、いじめをテーマにした映像作品の上映を実施します。

### オープニングトーク

8月21日(水) 10:00～11:45

尾木直樹さん(教育評論家)、山崎聡一郎さん(『こども六法』著者)他。  
コーディネーター 小森美登里さん(ジェントルハートプロジェクト)  
テーマ：子供の心身の健康と安全を守るために

### トークセッション

8月24日(土) 14:00～16:00

スマイリーキクチさん(タレント)、山崎聡一郎さん、他。  
コーディネーター 入江杏さん  
テーマ：インターネットといじめの問題

いずれの回もトーク終了後、ビデオ上映を行います。  
上映作品：「ほんとの空」(2012年・東映、36分)

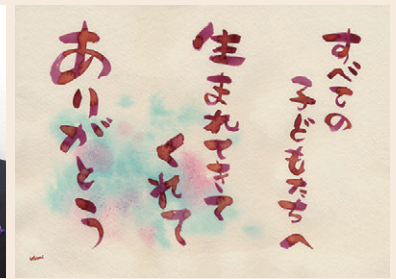
会場：東京都人権プラザ 1階 セミナールーム  
定員：各回 80名(事前申込不要、当日先着順)  
情報保障、託児保育についてはお問い合わせください。



尾木直樹氏



スマイリーキクチ氏



© GENTLE HEART PROJECT

## 交通案内

都営三田線 芝公園駅 A1 出口から徒歩 3分

(注) 車いす、ベビーカー等ご使用の方は、A3 出口エレベータをご利用ください。

都営浅草線・都営大江戸線 大門駅 A3 出口から徒歩 7分

(注) 車いす、ベビーカー等ご使用の方は、A1 出口エレベータをご利用ください。

JR 線・東京モノレール 浜松町駅 金杉橋口から徒歩 8分

(注) 車いす、ベビーカー等ご使用の方は、改札を出る前に駅員にお声がけください。



(注)

当館には一般の方用の駐車・駐輪スペースがありません。ご来館の際は公共交通機関をご利用ください。身体障害者の方等公共交通機関の利用が難しい方専用の駐車スペースをご用意していますので、事前にご連絡ください。

## お問い合わせ先

### 東京都人権プラザ

〒105-0014 東京都港区芝 2-5-6 芝 256 スクエアビル 1,2F

電話：03-6722-0123 FAX：03-6722-0084

e-mail：tenji@tokyo-jinken.or.jp

URL：https://www.tokyo-hrp.jp/

性暴力サバイバーフォトプロジェクト

# STAND & STAND Still 写真展

Picture This Japan presents・Directed by Nobuko Oyabu

東京都  
人権プラザ  
企画展



2020年

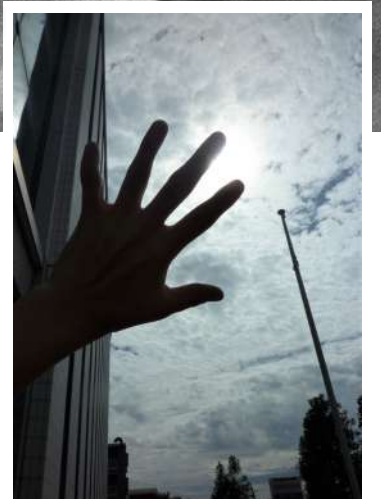
1月18日(土)~3月28日(土)

9:30~17:30

日曜日・休館(祝日・開館)

Photo from Project STAND:性暴力サバイバー達©2003 Nobuko Oyabu

- 入場：無料
- 会場：東京都人権プラザ 1階 企画展示室
- 主催：東京都人権プラザ (指定管理者:公益財団法人 東京都人権啓発センター)
- 協力：Picture This Japan  Picture This Japan  
We picture a better future



STAND Still 「私には光が見える」  
Photo by マツユキソウ©2019

# STAND 性暴力サバイバー達

オリジナルタイトル「STAND: Faces of Rape & Sexual Abuse Survivors」は、アメリカの新聞社で勤務していたフォトジャーナリスト大藪順子を突然襲ったレイプ事件が発端で始まりました。

自身の心の回復の中で受けた支援と、出会った人々の協力により、アメリカ・カナダ・日本で合計約80人のサバイバーを取材撮影。2002年の発表後、アメリカのテレビドキュメンタリーとなって大きな反響を呼び、全米各地で展示されました。2007年より日本各地でも展示されてきました。

このプロジェクトに参加したサバイバーのほとんどは、カメラの前に佇むことしかできなかったけれど、彼女等の写真は、性暴力とは何か、実は身近にある暴力であり、深刻な犯罪であることに気づかせてくれます。同時に、性暴力に限らず、辛かった過去と向き合う勇気を与えてくれるでしょう。



## STAND Still 性暴力サバイバー ビジュアルボイス

#MeTooムーブメントは、水面下にいる多くのサバイバーに勇気を与えてくれました。それでも、公に#MeTooが言えない人は、数えきれないほど存在します。

「STAND Still」は「STAND」の第二弾として、大藪が撮るのではなく講師として携わり、公に声を上げられない、または上げないことを選択したサバイバー自身が、安全に思いを表現できる場作りとしての取り組みです。

タイトル「STAND Still」とは、時として佇むことしかできないサバイバーや、性暴力を取り巻く社会的変化を静かに見詰めているサバイバーを表しています。

公募で集まった8人のサバイバーが、6回のワークショップの中で、思いを写すことに取り組み、写真に秘めた思いを語り合いながら作品を作りました。がんばって声を上げなくても、被害者の権利が守られる社会になってほしいと願っています。

### ● ファシリテーター 大藪順子 (おおやぶのぶこ)

フォトジャーナリスト。アメリカ・シカゴのコロンビア大学卒業。その後アメリカ中西部の新聞社で働く傍ら、全米各地と日本で約80人の性暴力被害者を取材撮影したプロジェクト「STAND: 性暴力サバイバー達」がテレビドキュメンタリーとなって反響を呼び、全米各地で写真展と講演を展開。2006年より日本各地でも写真展と講演会を通して被害者支援のために活動を続ける。1996-2002年全米報道フォトグラファー協会より数々受賞。2002年ワシントンDCよりビジョナリーアワード、2008年よりジャーナリスト賞、2011年コロンビア大学より卒業生賞受賞。2007年著書「STAND - 立ち上がる選択」出版。2018年より団体Picture This Japanを立ち上げ、社会的弱者といわれる人たちが自ら思いを写すことを通して自身と向き合い、声を見いだすためのフォトプロジェクトの企画・運営を行う。



会場：東京都人権プラザ  
セミナールーム  
定員：80名(要申込・先着順)  
申込方法：下記問い合わせ記載の電話・FAX・Eメールのいずれか(氏名、受講票送付先、人数)  
入場：無料  
託児：無料・要申込み(締め切りは各回開催日の3日前)  
手話通訳：あり(その他の情報保障は要問合せ)

## STAND&STAND Still ギャラリートーク

1月25日(土) 14:00~16:00 講師：大藪順子他  
性暴力サバイバーの「取材撮影」から「サバイバー自身が撮るプロジェクト」へのシフトで何が見えるのか、またそれは何を意味するのでしょうか。

## ビジュアル情報から考えるメディア倫理と私たち

2月14日(金) 19:00~21:00 講師：大藪順子他  
メディアがサバイバーの取材をする際、性暴力被害の当事者に対する偏見やステレオタイプが影響し、図らずも当事者を傷つけてしまうことがあります。メディア関係者と被害当事者との対話を通して先入観を助長させないメディアのあり方やメディアが伝える情報の見極め方について考えます。

## 女性たちのモノローグ：わたしがわたしであるために(朗読会)

3月7日(土) 14:00~16:00 出演：大藪順子他  
『STAND - 立ち上がる選択』(大藪順子著)をはじめ、様々な女性作家の自伝やエッセイを著者等が朗読します。

### ● アクセス

- ・都営三田線
- ・都営浅草線/大江戸線
- ・JR・東京モノレール

「芝公園駅」 A1出口から徒歩3分(エレベーターはA3出口)  
「大門駅」 A3出口から徒歩7分(エレベーターはA1出口)  
「浜松町駅」 金杉橋口から徒歩8分  
(エレベーターの利用は改札で駅係員にお尋ねください)  
※身体障害者の方や、公共交通機関の利用が難しい方の専用駐車スペースをご用意していますので、事前にご連絡ください。

### ● お問い合わせ 東京都人権プラザ

〒105-0014 東京都港区芝2-5-6 芝256スクエアビル1・2F  
TEL : 03-6722-0123 FAX : 03-6722-0084  
Mail : tenji@tokyo-jinken.or.jp URL : https://www.tokyo-hrp.jp/

